

『演劇は今! 自分を表現するものだ!』と イラクと日本の表現者が語りかけた興奮の夜。

『イラク Now!』ドラマリーディング&パントマイム
2月13日~15日 タイニイアリス



タイニイアリスで初のドラマ・リーディング。それもイラクの同時代戯曲を初めてアラビア語からストレートに翻訳したもの。伴走しながら得た経験をした。

その一つは、俳優がどんなに本を読み込むか、ということである。田口精一(劇団民藝)と美加理(クナウカ)の『戦争時代のお父さんたち』の、連日のような稽古を幸いにも身近に目撃できたのだが、一つ一つの言葉、各シーンの状況など逐一話し合い、細かくトーンやリズムを決めていく。平行して、実感のない地名や神様の名その他も調べながら——そうやって言葉はようやく、少しずつ少しずつその人のものになっていくのであった。

古川大輔(机上風景)・皮村猛(マリッジ・ブルー)の『自由の在りか』と、北村耕太郎・笹岡洋介(東京芸術座)の『遠くで誰かが手を振っている』は、それぞれの劇団で稽古してくださったので残念、その具体的な様子は知らないが、おそらく同じような作業があったにちがいないことは舞台を見てすぐわかった。笹岡組など台詞がもう体の中に入っていて、手の台本などほとんど要らないのだった。研究者や劇評家たちで、いったいこれだけ作品を読む人があったらどうか? 役者は凄いなと思った。一点の華・美加理は申し分なく

楽しかったし、新劇と小劇場演劇の俳優たちがちょうど半分ずつというもその差異が観られて実に興味深かった。

したがってプレヒトふうの『戦争時代のお父さんたち』(ヤーセル・ラザーク作)、ベケットを想わせる『自由の在りか』『遠くで誰かが手を振っている』(ミッサール・ガジ作)……3本のリーディングは予想を遥かに上回る好評だった。が、筆者がとくに、コレハヤバイ、上演の盛行を誇る日本もひよっとしたらかなわないのでは? と密かに舌を巻いたのは、このイラクの作家たちの、演劇は今! 自分を表現するものだ! ということへの疑いもない姿勢、自持であった。

文学座、民藝をはじめ『ゴドーを待ちながら』は日本で確かに何度も上演された。だがそれがただの紹介でしかなかったことは、その後の劇団の演目選択を見れば歴然であった。その、待つという行為、救い手が決して現れないというシチュエーションによるパロディも数限りなく舞台にのぼった。が、いったい、そのうちのどれだけが社会を、そこに生きる自分を表現したか。シンポジウムの3日目、「ご自身、国外へ脱出したいと思ったことは?」という観客からの質問にミッサールが「内」にいて「内」から変えたい」と思ってますと答えたのは印象的だった。血みどろの木のドで自分がウラジミールかゴドーか誰だか分からなくなってしまっている人々、あてどなく遠くを夢見る者と自分の町こそ変えなければと願う前世代の、しかし体と同じ血が流れている人々——ミッサールはそういうイラクの人々を、いや自分自身を描いたのであった。

日本のプレヒト受容もそれに輪をかけていた。千田是也の俳優座をはじめプレヒト劇の紹介上演はそれこそ数え切れない。が、プレヒトの、社会の仕組みをはっきり認識し変革していこうという演劇の方法を採って、日本の本質に迫ろうとした作品を私たちはどれだけ持ったか? ヤ

ーセルは、実際の誘拐事件から人間が商品でしかない今のイラクを描いた。終わって、

日本も同じだという共感がどっと寄せられたのは、嬉しかったし、哀しかった。マイム劇『バグダッドのおセロ』(アナス・アジール構成・演出、出演:アナス・ヤーセル・公門美佳)も、リーディングのあとのほんの気分転換? と思っていたらどうしてどうして。これまたなかなかの見応えであった。イラクは多言語の国。無言劇に長い伝統があると聞いてはいたが、見てみるほど、これは私たちのよく知ってるパントマイムやブトーなどの身体表現とはまったくちがう、声と体による“劇”なのだということが、まず、よく分かった。シェークスピアを借りて、愛を奪われ家も焼かれるバグダッドの市民を描いたものだが、そのバグダッドのおセロ(アナス)がただの被害者でなく、アゴー(客席にいたヤーセル)に足から真っ逆さまの荒業で飛びつかれ、白と黒、善と悪とに自己分裂していくところがワクワクするほど面白い。そのほか、奈落などないタイニイアリスの床を階段に見たてて昇り降りするところ、ヤーセルと美佳(アズデモーナ)が嗽(うがい)しながら互いに相手を探りあい愛を確かめるところ、かつて文明発祥、雄大なチグリス川がタイニイアリスのチンケな洗面の水道水へと衰退してしまっているところ等々、演出の工夫もいっぱいあった。

まだまだ荒削りだが、日本で呱呱の声を挙げたこの新作、これからさらに練り上げられ、中東諸国を巡演していくという。今回来日したミッサールとヤーセル、文化庁研修生のアナス。みんな、日本のみなさんの暖かい支援に心から感謝していた。初めてお互いをちょっぴり知り合うことのできたこの演劇交流、もうちょっと歩を進められたら……と私も心から願っている。
(西村博子/タイニイアリス・プロデューサー)



die pratzte M.S.A.collection 開幕!!

die pratzte 主催のアートフェスティバル、M.S.A. コレクションがいよいよ開幕。今回は参加する団体の中から2つのインタビューをお届けする。

M.S.A.collection 参加作品 NUDE < 舞踏 > 『部屋』
4/11(火) 19:30, 4/12(水) 15:30 & 19:30
@神楽坂ディブラツツ
前売 ¥2500 当日 ¥3000 (学生 500円引・要学生証)
問 = 090 5006 9019
出演 = 金野泰史 定方まこと (P.E.G.) ケンジル・ビエン (BABY-Q) 目黒大路 他

★NUDE 目黒大路さんに聞く

Q—はじめまして。
A—はじめまして、目黒と申します。
Q—今回は舞踏を始めたきっかけ、4月11・12日にM.S.A Collection 2006で発表する『部屋』の作品の内容について質問をしていきたいと思ひます。早速ですが、なぜ舞踏をやろうと思ったのですか?
A—アスベスト館というところが、アイコンというワークショップをやっていて、それにフッラツツといったのがきっかけです。そのワークショップが、舞踏だけではなく、芸術に関するさまざまなことをやっていて、美術、音楽、ダンス、写真、照明、面白いのでは、刺青、補綴という



撮影 ダイトノウケン

のもありました。もともと芸術は好きでしたし、知らない世界を見るのが面白くて、通っているうちに、そのままという感じです。

Q—なるほど。一気に踏み込んで、舞踏の核心とは何ですか?

A—あ〜、来ましたね。わかりません。ただ、飾らない体がそこにあればいいとは思っています。あと、例えば、ピカソのゲルニカのようでありたいとは思っています。うおっ! と思うじゃないですか。ストーリーとかではなく、ガン! とくるものがあるじゃないですか、そういうものでありたいですね。ゲルニカの本物見たことないのでなんとも言えないんですけど。

Q—作品を作るうえで気にしていることはありますか?

A—体と時間と空間です。この間、テレビで見たんですが、何だかという鳥は、獲物が来るまで半日以上同じ場所で動かずにいるんですよ。客観的に固定された時間を遮断して、そのものの時間、自身の体が作り出した静かな時間の中で、獲物を持っている。獲物が現れたとき、鳥の体は、時間とともに空間を動かすんです。そういう作品をつくりたいです。だからといっ

て舞台の上でずっと動かないということをやるとはありませんが。

Q—作品について伺います。今回のテーマは?

A—「目的のための行為が目的にかわる」ということがテー

マです。

Q—具体的にいうと?

A—子どもの道草みたいなものです。家に帰るといふ目的が、途中で次から次へといろいろな遊びに夢中になって帰るといふ目的を忘れてしまう。目的なんてははじめからなかったのかもしれないし、目的を持つことで安心したかったのかもしれない。

Q—作品を作るうえで、イメージの源となった作品などあるのですか?

A—吉岡 実氏の『僧侶』などを参考にしています。

Q—なるほど。今回の作品をどう見てほしいですか?

A—特にないんですけど、何も考えずに、ぼーっと見てほしいです。

Q—最後に、これから舞踏は、どうなっていくと思ひますか?

A—わかりません。

Q—ありがとうございます。(p3に続く)

die pratzte M.S.A. collection 2006 (3/24 ~ 5/7)
何かの病原菌に犯される錯覚に陥ってしまいそうな先進的で衝撃的な die pratzte 芸術祭。

1980年代後半から実験的、先駆的な舞台を応援しようとした不定期アートフェスティバル。国内外の演劇やダンス、パフォーマンスを中心に音楽や映画、美術などのノンジャンルで構成。保守的傾向の強い現在にこそ、アートの原点を見つめなおす為に必要不可欠なフェスティバルと考える。
チケット取り扱い、会場についてはp4スケジュール欄を、公演プログラムの日程はp3参照。

色褪せない古典の魅力。時代の枠を越え、レッシング、太宰が我々に訴えかけるもの。

注目の公演が続く東京国際芸術祭 2006。これから上演されるプログラムの中から2本の作品をご紹介します。どちらも新作の戯曲ではなく、過去の作品を取り上げているが、これらの作品は現代の私たちにどのようなメッセージを訴えているのだろうか。

古典に新しい命を吹き込む、卓越した演出手法

ドイツ座「エミーリア・ガロッティ」
3月19日(日)～21日(火・祝)
影の国さいたま芸術劇場

レッシングの古典をもとにしたこの作品では、結婚を間近に控えた一人の女性、エミーリアをめぐる愛情劇が美しく描かれる。注目すべきは演出家ミハエル・タールハイマーによる現代的な演出だ。舞台の上には小道具等はほとんどなく、役者達はやや記号化されたような身振りを交え、滔々と台詞を吐き出す。この形式化されたような特徴的な演技に観る人は驚かれるだろう。しかし、この淡々とした冷たい抑制された演技によって、逆に人物の激しい感情や、人物間の関係性が伝わってくるのが不思議である。嫉妬心や恋愛感情、絶望といった激しい感情を持ちつつも、お互いは決して交わったり、通じ合うことの無い登場人物達は、個人個人に寸断された現代の私たちのように見える。「エミーリア・ガロッティ」という戯曲について、また、タールハイマーの特徴的な演出について萩原健氏が次の文章を寄せてくれた。

ドイツの首都、ベルリンの中心にあるドイツ座(1850年設立)はドイツ語圏を代表する劇場/劇団の一つです。また1906年に開場した併設の小劇場、カンマーシュピールは、日本初の新劇の劇場・築地小劇場(1924年開場)のモデルです。いわばドイツ座には日本の台

詞劇の源流の一つがあるとも言えるでしょう。

このドイツ座で演出家タールハイマーが活動を始めたのは2001年、「エミーリア・ガロッティ」(以下「エミーリア」)はそのデビュー作です。1965年、フランクフルト近郊に生まれた彼は、85年から俳優術を学び、まず俳優として、97年の初演出からは演出家として、ドイツ語圏各地の市立劇場で活動しています。2000年演出の二作品が同時に01年のベルリン演劇祭(ドイツ語圏演劇の年間最優秀作品を決める演劇祭)にノミネートされて以降、数々の演劇祭に招かれ、また「エミーリア」をはじめ、多くの賞を受賞しています。05年夏からはドイツ座の主任演出家で、制作主幹の一人でもあります。「エミーリア」はベルリンで100回以上上演されていますが、客席はなお満員で、また客演は世界各国で行われ、今季はモスクワとニューヨークで上演されています。

「エミーリア」の作者レッシングはドイツ文学史上、〈啓蒙主義〉の時代の作家として位置づけられます。18世紀後半、文芸批評や美学論など、彼は様々な分野で当時の偏見や拘束を打ち破る試みをしています。戯曲もその一つです。その頃のドイツ演劇はフランス古典劇の模倣が主で、作法的な法則にしばられていたのですが、レッシングはギリシア古典劇や民衆劇、自由な構成のシェイクスピア劇を評価し、新しい手法による戯曲を発表しました。またその背景には、当時ヨーロッパの人口が増え、商業都市が繁栄し、市民階級が台頭してきたという社会の変化もありました。北ドイツの港町、ハンブルクの市民階級の人々が国民



ミハエル・タールハイマー
撮影/浦江由美子

劇場を設立し、顧問兼批評家として招かれたレッシングは「ハンブルク演劇論」(1767-69)を執筆、

悲劇の主人公が従来歴史上の英雄や王侯貴族に限られていることに異を唱え、市民を主人公にした〈市民悲劇〉の理論を展開します。この理論が実践された作品が「エミーリア」(1772)で、通俗的にもとれるモチーフは精緻な手法で構成され、また舞台は近世のイタリアですが、当時のドイツの封建的な支配階級の腐敗と暴政が分析・批判された内容になっています。

「エミーリア」はいわゆる古典で、ドイツでは高校の国語の授業などで読まれ、物語はよく知られています。そして古典が現在ドイツの劇場で上演される場合、しばしば現代風に演出されるのですが、単に現代風の衣装や装置にする以上にどんな工夫をするかが問題です。その点、タールハイマーは「エミーリア」の演出で最大級の成功を収めました。「作品に忠実であることはテキストに忠実であることと関係ない」と言う彼は、作品をラディカルに切り詰め、時代や場所を問わない普遍的なものを示そうとします。端役は一切登場せず(「エミーリア」では画家や召使など)、また装置や道具も極力排除されるため、舞台空間はいつもほとんど文字通りの〈空間〉です。このようにシンプル極まりない場を与えられた分、俳優たちの台詞と演技の密度は最大限に凝縮されます。どうぞ今回は存分に「レッシングのエッセンス」(タールハイマー)をお楽しみください。(萩原健/早稲田大学演劇博物館)

太宰治の目に映った、戦後の狂気の本質

『冬の花火、春の枯葉』 原作/太宰治
構成・演出/倉迫康史(Ort-d.d)
3月24日(金)～3月27日(月)
にしすがも創造舎特設劇場

日本からは太宰治の戯曲をとりあげた作品が登場する。この今から60年ほど前に書かれた戯曲は、今の日本に暮らす私たちにどんなメッセージを発しているのだろうか。

にしすがも創造舎で「サーカス物語」などを手がけてきた演出家の倉迫康史が、太宰治の戯曲「冬

の花火」(1945年発表)と「春の枯葉」(1946年発表)を軸に、太宰晩年の作品群のエッセンスを取り込んで舞台化する。1945年、36歳で太平洋戦争の終結をむかえた太宰は、それから3年間で「斜陽」「人間失格」などの代表作を立て続けに放ち、1948年に自ら死を選ぶ。この時期の太宰をつき動かしたのは、敗戦を自覚せず再生とは逆方向に墮落していく日本人への悲しみと絶望だった。その痛恨の思いは「負けた、負けたと言うけれども、あたしは、そうじゃないと思うわ。ほろんだのよ。滅亡しちゃったのよ。日本の国の隅から隅まで占領されて、あたしたちは、ひとり残らず捕虜なのに」という「冬の花火」の冒頭の台詞にも込められている。この二本の戯曲は故郷津軽を舞台に著された反戦後論なのだ。「日本の戦後を考

える上で「冬の花火」「春の枯葉」はとても重要です」と倉迫は言う。「太宰の“戦い”の軌跡を劇化し、彼が問い続けた敗戦後の日本人のあり方を、もう一度見つめたい。そういう時期が来ていると思う」。

深い悲しみと諧謔に彩られた太宰の問いは、戦後60年の私達をどう揺さぶるのか。乞御期待。



『冬の花火、春の枯葉』
撮影/萩原 靖

INTOWN

生活=音楽

■恵比寿と代官山の間にある、「Artist Residency Tokyo」というスペースへ。国内外のアーティストを招いて、制作を行うという場所だけに、ガラス張りの入口にはドローイングがなされている。アーティストはヨルク・ガイスマールという、スウェーデンの血も流れるというドイツ人。スペースの中に入ると、人間の足元を写した写真が並ぶ。それは普段あまり意識をしない、でもそれは毎日目にしているはずの「足元」。床、草、アスファルト、いろいろな場所に立ったり、歩いたりしている「足」である。あまりにも「足」というモチーフが身近でありながら存在が薄いことに気づかされる。地下にも会場はあった。地下では、いろいろな場所を歩き回り、作家自身が自分の足だけを映した映像作品が流れている。その町はおそらく展覧会名になっているベルリンでもあり、東京なのだろうか、



具体的なものはわからない。ひたすら歩く「足」を、その町のノイズとともに映しだしている。パフォーマンス的要素も少しはらむ「歩く」という行為、普段意識することの少ない「足」という人間の部位を改めて見せることで、ぼーっと生きていることがあまりにもつまらないことに気づいた。(藤田千彩)

2月11日～3月17日、ヨルク・ガイスマール「LOST IN BERLIN - LOST IN TOKYO」、

恵比寿 Artist Residency Tokyoにて。

■大塚 out-lounge にて行われたワークショップ&音楽会「大塚ノート」に参加した。楽器経験や年齢を問わず誰でも参加出来るこの音楽会、当日はミュージシャンからパフォーマー、子どもまで幅広い人が参加した。まずは大塚の町を皆でお散歩。途中聴こえてくる音に注意し、それを色鉛筆やペンでノートに記録していく。その後スペースに戻り、町の印象をもとに(あるいは全く自由に)即興の音楽会がはじまる。演奏中は何をするのも自由。寝転がる人、壁に絵を描く人、音を出す人、見てるだけの人…。まったくの自由な演奏のため、出て来た

音はカオス状態。しかし、いい演奏とか悪い演奏というのはこの場合あまり意味をなさない。これは作られた「音楽」ではなく、ただ音が空気のように存在しているだけなのだから。気がつくと40分も演奏を続けていたが、もっと続けてもよい気分であった。これがもし、(食事をして仕事をしながら)一日中ずっと続けられるとしたら、生活全てが音楽になるという経験ができるのではないかな。そして一週間、一ヶ月、そして生きている間ずっと続けたら…。ジョン・ケージ以降、聴く側の意識によって周りの音すべてが音楽になりうる、または音楽は誰にでも演奏可能だ、という考えは広く認識されているが、そういう実感をもたずして味わうことはあまり無い。【とても数居の低い音楽会】という主催者の言葉通り、音楽と普段の生活との間を近く感じることが出来た企画だった。(小笠原幸介) 2月4日、コラボラ企画ワークショップ「大塚ノート」大塚 out-lounge にて。



オスカー・ワイルドの名作古典が 稲妻パンクに返り咲く!!



劇団鹿殺し「SALOMEEEEEEEE!!!」
脚本/丸尾丸一郎 演出/葉月チョビ
4月22日(土)~5月3日(祝)
新宿タイニアリス

2005年春より東京進出後、2度の劇場公演はもちろんで、週6の路上劇やライブハウスでのイベント、全国ライブハウスツアーなど様々なシーンで着実にファンを増やしてきた劇団鹿殺し。観客層は路上からのお客様が6割をしめる不思議な舞台。今回の古典作品「サロメ」への挑戦をきっかけに躊躇している方にもぜひ一度劇団鹿殺しの作品を観ていただきたい! 劇団旗揚げから5年、これまでの幅広い活動のすべての経験を持ち帰る力強い作品です。鹿殺しらしいロックなテイストの中に古典「サロメ」の新しい解釈、新しい視点からの世界感を展開、単なる古典作品の上演ではない楽しみ方を。

また4月23日と26日には初のアフタートークにも挑戦。シアターガイド編集部小林靖弘氏と演劇ぶっく川口有紀氏を迎える2日間。それぞれどのような本音トークが引き出されるかお楽しみに!

【劇団鹿殺しとは】

2000年兵庫県西宮市にて座長、演出の葉月チョビ、作の丸尾丸一郎により旗揚げ。関西を拠点に活動展開。2005年4月東京進出。劇団員7名全員での共同生活、週6日ベースの路上パフォーマンスを

はじめとした幅広い活動に演劇だけでなくTV、ラジオ等各マスコミからも注目を集める。路上から劇場へと足を運ぶファンも多く、ゴールデン街劇場での公演は連日のように仕事帰りのリピーターたちであふれた。ライブハウスでのバンドとのブッキングライブにも数多く参加。2006年2月は福岡から仙台まで10箇所の全国ライブハウスツアーを敢行。ライブハウス仕様のロックな演劇作品を発表。異ジャンルにも負けない演劇のかっこよさを見せつけてくる。ツアーファイナルの渋谷ラママはソールドアウト。発売されない当日券に並ぶ人の姿も。

なにはともあれ全国武者修行帰りの鹿殺しが贈るロックな古典、東京進出後一年間の集大成になるようなパワフルな舞台をお約束します。ぜひ劇場でお会いしましょう!

※引き続き路上劇も敢行中!「SALOMEEEEEEEE!!!」まで待てないあなたは応援しにきてね! 詳しくは劇団ホームページまで。→<http://shika564.com>



アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場 TINY ALICE より最新ニュース

「SALOMEEEEEEEE!!!」情報は随時特設サイト「鹿サロメ」にて公開していきます。

観劇のポイントや、作品世界の楽しみ方が広がるページです。劇団HPとあわせてお楽しみください。

(PC+Mobile)

<http://shika564.com/s>

4.23(日) 18:00 アフタートーク

ゲスト/小林靖弘(シアターガイド編集部)

4.26(水) 14:00 アフタートーク

ゲスト/川口有紀(演劇ぶっく)

5.1(月) 14:00 アフター李

(内容はまだシークレットです)

(以上、全て本編終了後)

●料金/前売2800円 当日3300円

(全席指定・日時指定)

●出演 山本聡司、JIRO・J・WOLF、渡辺ブレラ、

オレノグラフィティ、丸尾丸一郎、葉月チョビ 他

●お問い合わせ 0424-76-4839(オフィス鹿)

090-3962-7316(オフィス鹿 携帯)

●メール/info@shika564.com

●チケット取り扱い チケットぴあ...0570-02-9999

(Pコード=367-196) イープラス...<http://eplus.jp>

/shika564/ ローソンチケット...0570-084-003

(Lコード=31748) 劇団ホームページ予約...<http://shika564.com>

(パソコンor携帯) (全て3月12日(日)

AM10時より一斉発売予定)



未体験の刺激満載。M.S.A.コレクション

(plより続く)

(-2) LDK <演劇>

[root in work]

問=080-3444-4342

@麻布ティブラツ

4/4(火) 19:30

4/5(水) 15:30

& 19:30

※開場は開演30分前。客入れ芝居あり。開場時間までのご案内をおすすめします。前売¥2500 当日¥3000(学生500円引、要学生証) 作・演出=岸井大輔(劇作家/POTALIVE主宰) 出演=木室陽一(ダンサー/POTALIVE主宰) 神原順一(おどり) 田口アヤコ(劇作家・女優/COLLLOL主宰) 垣内友香里(ダンサー/Benny Moss主宰) 他 美術=mi-ri meter(建築ユニット) 音響=寺田俊彦

★POTA LIVE 岸井大輔さんに聞く

Q—岸井さんという、お散歩演劇「ボタライブ」の作家さんです。私も参加したんですが、俳優の町の話しを聞きながら散歩をしていると、町を歩いている人全員が演劇をしているようで不思議な体験でした。映画の中にいるような。

岸井—僕には、まちの建物も群集も演劇に見えます。行動と対立、つまりドラマがあるからです。身体表現と劇構成を使い、町が演じているように感じさせたいと思っています。

Q—舞台作品も含め、どれも演劇という枠にはおさまらない、新しい表現ですね。

岸井—いや、演劇がやりたいだけなのです。ただ、劇作を続けるうち、リアルで感動的であるためには、劇が必要とされる状況が必要と感じました。

Q—劇の必要性ってなんですか?

岸井—音楽がなくなると困りませんか? 演劇も同じ

ですよ。ただ、「劇場」には、演劇的なものを切実に必要としている人が減っているのではないかと。必要とされているところにいき、満たすように、劇を作ってきただけです。

Q—今回はアートプロジェクト(-2) LDKでのMSA参加です。

岸井—(-2) LDKはアートプロジェクトです。家なんて崩れ帰る場所を思うのさえ難しい。でも必要とされている。だからアーティストが形にしよう。建築家のミリメーターさんと組んで、2003年から活動しています。

Q—このプロジェクトでは今までどんな作品を?

岸井—たとえば、小さな商店街の惣菜屋で、イロイロなジャンルの作品を売りました。煮物などあるメニューにダンスなどを入れ、しっかり踊れるコンテンポラリー系のダンサーさんに日替わりで来ていただいたり。

Q—町の人に、コンテンポラリーダンス。伝わりにくい気がします。

岸井—実際は、各ジャンルのマニャックなものが売れます。説明なんかありません。僕は、豆腐屋さんのために誕生日のお祝い劇を作って売ったりしました。豆腐屋さんだけがお客様。

Q—作り方にこだわっていらっしゃるようですね。

岸井—プロセスでは理論と実験を惜しみたくない。でも上演は感動的で嘘のような本当のプロセスがどうなっているかなんて気づかれないように見せたい。プロセスと結果、どちらも大事でどちらも楽しい。よいアートは単純によいエンターテインメントになると思っています。

Q—劇の枠を超えた楽しいものが見れそうですね。期待しています。

岸井—ありがとうございます。劇しか作れません

ので、劇にしかありませんがね(笑)

Q—ありがとうございます。

新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場 DIE PRATZE より最新ニュース

die pratze M.S.A. collection

- 神楽坂ティブラツ
 ■OM-2 [作品No.4]—リビングゲ
 3/24(金)~3/28(火) p4スケジュール欄参照
 ■NUDE[部屋]
 4/11(火)&4/12(水) p1インタビュー参照
 ■Power Doll Engine「東京物語」/作:竹内統一郎
 4/14(金)~4/16(日) ☆問=okudo-10@b-star.jp
 ■イマージュオペラ>>トリプティック<<
 4/18(火)&4/19(水) 18日アフタートーク有り ☆問=03-5373-0536 「地図の作成」☆振付・ダンス=野沢英代/「ベッツがほしい」☆演出・構成=綾原江里 ☆出演=相良ゆみ 吉川裕子/Novelorn longlost lugubru Blooloooom ☆振付・ダンス=脇川海里
 麻布ティブラツ
 ■(-2) LDK [root in work]
 4/4(火)&4/5(水) 左インタビュー参照
 ■テラ・アーツ・ファクトリー「イグアナの娘、たち」
 4/7(金)~4/9(日) p4スケジュール欄参照
 ■ゼロ次元・加藤好弘/向井千恵
 ゼロ次元・加藤好弘「いなばの白うさぎ」/向井千恵「青天」
 4/10(月) ☆問=tatami.15@hotmail.co.jp
 ■ダンスの犬 ALL IS FULL「裂けていくvol.4」
 4/11(火) ☆問=047-447-0073
 ■マキガミックテアトリック チャクルバ2「ザーウミの海で」
 4/14(金)~4/16(日) 14日アフタートーク有り
 ☆問=0465-63-0578
 ■hmp [In der Strafkolonie]
 4/18(火)&4/19(水) ☆問=090-3355-2669 ☆作=フランツ・カフカ「流刑地にて」 ☆構成・演出=笠井友仁
 ■東京劇団プロデュース「蒼穹(そら)はない」
 (A・アルト—原作)
 4/21(金)~4/23(日) ☆問=03-3416-3170
 ■発見の会「革命的ロマン主義」
 5/3(水)~5/6(土) ☆作=上杉清文 ☆出演=有馬則純
 ■境野ひろみ「雑草花子」
 5/7(日) ☆問=03-3493-1086(境野)
<http://www.geocities.jp/azabubu/>もご覧ください

M.S.A. collection参加 OM-2 →



鋭利な感性によって切り取られた 現代における「死」のイメージ。



芸術文化を支援、発信するNPO
アートネットワーク・ジャパンより
MONTHLY LETTER Vol.28

3月18日(土)~21日(火・祝)「4.48サイコス」
作=サラ・ケイン 演出=阿部初美 翻訳/ドラマトゥルク=長島確
◎にしがも創造舎特設劇場 東京国際芸術祭2006提携公演

東京国際芸術祭2006の提携公演となる「4.48サイコス」はイギリスの劇作家サラ・ケインが自殺する直前に書き上げたテキストをもとに制作された実験的な作品だ。死と、狂気のイメージが溢れたこの断片的なテキストが、一体どのように舞台化されるのか非常に楽しみである。ドラマトゥルクをつとめた長島確氏にこの作品について、またこのテキストを取り上げる意図について語ってもらった。

昨年6月に警察庁が発表した統計資料によると、年間の自殺者が7年連続で3万人を超えた(1998~2004年)。97年まで2万台前半で推移していた数字が、相次ぐ証券会社の破綻などを経験した翌98年にかけて急増し、以来、年平均3万2千人以上、1日に89人余、1時間に3.7人がみづから命を絶っている。またこの7年間の累計は東京23区のうちの中小規模の区の人口に匹敵し、つまり区ひとつぶが7年で自殺によって消滅したことになる。

イギリスの劇作家サラ・ケインが1999年に書いた「4.48サイコス」という戯曲は、読む者を惹きつけてやまない。謎めいた数字を冠した精神病(サイコス)を表題とする。美しい作品。だがこの魅力は危険なものでもある。書かれているのは鬱と自殺願望にとりつかれた何者か

の声であり、昏迷と明晰さ、怒りと静けさの同居する奇妙な時間である。触れてはいけない何事かの魅力。触れれば必ず傷を受ける魅力。

またこの戯曲は、演出家をも惹きつけてやまないだろう。わずか数十ページのテキストは、およそふつうの戯曲の体裁をなしていない。配役がないばかりか、一部を除いて台詞の振り分けもなく、段組を多用した特異なレイアウトで、詩のようなことばが散らばっている。どのようなかたちで上演するのか。どのような姿で観客に届けるのか。

作家はこのテキストを、朝4時48分に目覚めて書いたという。そして脱稿直後の99年2月、自殺。だからこの戯曲は、作家自身の遺書として、ある意味不幸なかたちで世に出ることになった。たしかにこのなか、心を病んだ女性の物語を読み取ることはできる。発病から自殺へ至る曲がりくねった道。医者とおぼしき人物。けれどもテキストには人数も性別も指定されておらず、ただとさきおり、シーンを区切るかのように、点線が現れるだけである。まるで喉元に引かれた切取線のように。

今回わたしたちは、このテキストの鋭利な刃物のようなことばを、いまの日本の社会に突き立ててみたいと思った。特別な個人の伝記でもなく、どこかよその国の物

語でもない、矛盾や混乱を含んだひとつの社会そのものような姿を与えたいと思った。中高年のうつ、小中学生のリスクカット、ネット自殺、孤独死、格差社会...そこから漏れる何者でもない者たちの声。この物騒な戯曲にはまちがいなくそれだけの力がある。

長島確(翻訳/ドラマトゥルク)

●サラ・ケイン Sarah Kane

1971年イギリス生まれ。95年、最初の戯曲『ブラステッド』がその残酷さで物議を醸す。以後『バイドらの恋』(96)『浄化』(97)『皮膚』(短編映画、97)と書きつづ一方、演出家・俳優としても活動。作風を転じた『渴望』(98)をさらに押し進めつつ、およそ1年をかけて『4.48 サイコス』を書き上げた直後の99年2月、自殺。「演劇の地図を書きかえた」現在最も重要な作家である。

(C)佐藤慎也

TINY ALICE / NPO ARC

新宿区新宿2-13-6 光亜ビルB1 tel&fax 03-3354-7307
http://www.tinyalice.net tokyo@tinyalice.ne.jp

3/9(木)~3/12(日) ■デッドストックユニオン
「箱のゆくえ」 問=090-1454-5732 ☆作=渡辺熱☆演出=志賀政徳、江藤修平、大貝礼 里井ひさし 菊池敏弘 岡本真生子 赤星アメ 手塚洋子 佐藤裕子 友成陽子 吉岡友見白鳥光治 山口雅美 菊地芽衣子 石坂玲 ◎昨年、演劇ユニットとしてスタートした二つこは今年劇団となりました。ポップでスピード感のある作品作りがみぎをかせます。

3/15(水)~3/19(日) ■池の下
「狂人教育」 問=080-3389-7967 ☆作=寺山修司 ☆演出=長野和文 ☆演出=井上美千代 いずみみさこ Kumi、櫻井雄一 二面由希 張替真刺子 鳴沢唯史 石橋正生 深井邦彦 遠辺健太郎 川上実永 橋千里 ◎寺山修司作品上演計画を展開して評判の池の下が、久しぶりにアリスに登場。お見逃し無く!

3/23(木)~3/26(日) ■ボスカレ
「Road Runner」 問=090-1774-4914 ☆作=演出=佐藤圭☆演出=小笠原圭 北里隆明 小島裕一朗 佐藤圭 須田祐介 湘山圭春 西畑聡 ◎「BOSTON COLLEGE」での活動を休止し、新に「ボスカレ」として再出発。今までの良い部分は踏襲し、さらにスタイリッシュにさらに笑える舞台を目指します。面白いことは間違いない。ご期待ください。

3/30(木)~4/3(月) ■WHATCOLOR
「夫たちの挽歌」 問=070-6559-8709 ☆作=演出=イクタニマサオ ☆演出=前田昌巳 古泊明敏 今里真 ちよーすけ 佐藤隆子 中谷真由美 宮内洋 岡田桂子 松本恭典 山岸里江 伊藤尚子 荒木秀行 ◎新宿三丁目にあるオンボロアパートに住む父の墓にたむろする娘清達。そこに押しかける娘達。アパートの住人もまきこみ家族愛、夫婦愛を問いかけて。そこに1人の男がやってきて...

4/4(火)~4/9(日) ■イデオザヴァン 内容未定
4/11(火)~4/16(日) ■劇団チヨコレートケーキ
「何か、空海?」 問=080-6517-2508 ☆作=演出=松永卓也
☆演出=工藤正邦 古川健 岡本篤 松永卓也 日澤雄介 高橋信行 ほか ◎小学生の時に出版された「あなたの親友は誰?」という高校をきつかけに孤独人生を送ってきた16歳少年、そんな彼が宿生になる。部を設立する。その名は「孤独部」。孤独(と悪い込んで)人間だけが集まると何が起るのか?

神楽坂 die pratzte

〒162-0812 新宿区西五軒町2-12 T&F 03-3235-7990

★★★★★ die pratzte M.S.A. collection 2006 ★★★★★★
何かの病原菌に犯される錯覚に陥ってしまいそうな先進的で衝撃的な die pratzte 芸術祭 p3の全体スケジュールも参照。

■会場:神楽坂 die pratzte 03-3235-7990

〒162-0812 新宿区西五軒町2-12

麻布 die pratzte 03-5545-1385

〒106-0044 港区東麻布1-26-2F

フェスティバル通し券(1演目につき1回有効 die pratzteのみで予約受付)一般¥6500 学生¥5500(要学生証)
■チケット取り扱い:チケットぴあ 0570-02-9999
■予約・問合せ:神楽坂 die pratzte 03-3235-7990 (火曜定休12:30~17:30) 麻布 die pratzte 03-5545-1385 (月曜定休18:00~23:00) pratzte@ask.ne.jp

■OM-2 <シアターパフォーマンス>「作品No.4」ーリビングー
問=03-3235-7990 神楽坂die pratzte内(火曜以外12:30~17:30) 3/24(金)&3/25(土) 19:30 3/26(日) 18:30 3/27(月)&3/28(火) 19:30 ☆前売2500円 当日3000円(学生500円引き) ☆構成・演出=真壁健夫 ☆テキスト=佐々木治己 ☆演出=佐々木敦 中井寿央 柴崎直子 丹生谷真由子 江島嘉政 大根田真人 三村順 宮本享平 他

■NUDE <ダンス>「部屋」 問=090-5006-9019
4/11(火) 19:30 4/12(水) 15:30&19:30
☆前売2500円 当日3000円(学生500円引き)
☆演出=金野繁史 定方まこと(P.E.G.) kyom(salvanilla) ケンジル・ピエン(BABY-Q) 黒黒大路 p1インタビュ参照

以下一般公演。フェスティバルとは関係ありません。
3/1(水)~3/5(日) ■TAC三原塾
「遊び心でチーフホフを!」プロボス!「熊」「創立記念祭」
問=03-5376-1847 ☆作=チーフホフ ☆訳=中本信幸 ☆演出=戸部紀之 出演=田中芳弘 田辺衣子 坂浦洋子 KUMI ◎チーフホフ笑劇三本立て!可愛い女性に、愛すべし男達...新たに発表するTAC三原塾が、温かい笑いをお届けします。

3/10(金)~3/12(日) ■劇団白コボコ
「キビダングのレシビ」 問=090-5332-9201 ☆作=演出=西澤沙 ◎舞台は桃太郎の世界とよく似ている。でもそこに桃太郎はいない。主役は鬼。そしてキビダング。強引な展開と支離滅裂なストーリー展開で構成される不經工な物語。
3/16(木)~3/19(日) ■ピンズ・ログ
「ルカの三兄弟」 問=03-3902-8328 ☆作=演出=平林亜希子 ☆演出=石塚義高 植木広子 小島幸子 小山涼 桜井裕 迫田圭司 高野亮輔 他 ◎「他人の世話を焼く前に、アタタの家族を何とかならよ。」教会の牧師と三人の息子、そしてその周辺の人々の、滑稽で切実な物語。

3/31~4/2(日) ■輪アイト
「Bフオー・サンセット」 問=090-1361-8167 ☆作=演出=岡田一博 他 ☆演出=編劇人 岡田一 ◎短編小説家、遊園地耕平。あれから一年。彼は夕日色の女に心奪われていた。いま遊園地耕平、渾身の一作を書き上げる。テーマパーク型ミニシアター! 4/4(火) ■LUNE NEO PERFORMANCE 2006
「あなたとあいのセレナーテ ~雪降り~」 問=03-3235-7990(神楽坂die pratzte) (注:この公演は女性限定となります。作品の都合上途中入場できません) ☆作=演出=江口信利 ☆演出=LUNE ◎消えつつある魂が純然と振りほどく。春国にのり輝く復活祭がここから始まる。私のために! そして みんなのために...

4/6(木)~4/9(日) ■アトリアルカデミー-舞台実習発表
「ハウス・クリニク」 問=090-2470-5199(舞台実習制作部) ☆作=演出=佐々木聡 ◎引越のあとの家屋を掃除する6人の女たち。今回の仕事は郊外の軒家。いつも通りの仕事はさすが、

ちょっとした発見が重なるってゆく。

麻布 die pratzte

〒106-0044 港区東麻布1-26-6-2F T&F 03-5545-1385

★★★★★ die pratzte M.S.A. collection 2006 ★★★★★★
■(2)LDK <演劇>「root in work」 問=080-3444-4342
4/4(火) 19:30 4/5(水) 15:30&19:30 ※開場は開演30分前。客入り芝居あり。開場時間での入場をおすすめします。
☆作=演出=岸井大輔(劇作家/POTALIVE主宰) ☆演出=木室陽一(ダンサー/POTALIVE主宰) 神原麻一(おどり) 田口アヤコ(劇作家・女優/COLLAGE主宰) 垣内友香里(ダンサー/Benny Moss主宰) ☆美術=mi-ri meter (建築ユニット) p3インタビュ参照

■テラ・アーツ・ファクトリー<演劇>「イグアナの娘、たち」
問=090-6020-7391 4/7(金)19:30 4/8(土)15:00&19:30 4/9(日) 14:30&18:30 ☆前売・当日3000円(学生500円引き) ☆構成・演出=林英樹 ☆演出=榎岸佳南江 藤井理代 井口智中 内野智子 横山晃子 入好聖紀 志村麻里子 佐藤和紅 上田誠子 黒澤亜希子 涙運いくみ

以下一般公演。フェスティバルとは関係ありません。
3/2(木)~3/5(日) ■ACT project Raccoon Dog
「ACT project Raccoon Dog VOL.IX [Bye-Bye GAME]」
問=03-3420-9490 ☆作=演出=POCHI田中 ☆演出=白川空司 桃乃すも 駱駝輪オイル 真我佐助 山口晴志郎 ◎ACT project Raccoon Dog結成6周年記念公演。とある単線鉄道の電車の中で繰り広げられるハートフルシチュエーションコメディの決定版!!

3/8(水)~3/14(火) ■She-friends
「LIFE」 問=090-6563-1181 ☆企画=原家 演出=白峰ゆり子 ☆作=中川千英子 ☆演出=横由紀子 加藤忠司 原千果子 森うたう 小川明子 他 ◎妻、母、そして40代 平凡で幸せなあなた。衝撃が襲うその時、彼女は生きる意味を自分に問う「あなたにとって、人生とは何ですか?」
3/17(金)~3/21(火・祝) ■外連、Soul Rynich合同企画公演
「飛龍伝」 問=090-8101-3660 info@keren-net.com ☆作=つかこうへい ☆演出=世志男 ☆演出=武智健二 宝田雅貴 天正彰 世志男 吉沢キヨ 本城敏大 他 ◎外連とソウルリンチの決り集合企画。つかこうへい作品に挑むべく頑固たる実力闘争に立ち上がった面々が狂乱の演出家・世志男の世界に誘います。

3/24(金)~3/26(日) ■劇団浪濤の探偵事務所
「土郎たちの憂鬱」 問=090-1034-9774 ☆作=演出=四万十川士郎 ☆演出=四万十川士郎 柴純子 伊東明子 高橋知紀 呂 宮田枝里香 他 ◎英雄=鬼から人々を守る-異形の力と太郎の名を持つ者たち。そしてその英雄、桃太郎・金太郎・湘島太郎の、三人の太郎たちが英雄と神を巡る、ファンタジー活劇。
3/28(火)~4/2(日) ■芝居屋さん社中
「それでも地球は恋する」~ロミオ&ジュリエットより~ 問=090-9978-2403 ☆作=みうらもとみ ☆演出=三亜節朗 ☆演出=五歩一豊 近藤茂夫 吉川秀雄 青柳ひで子 足立利枝 中川謙二 他 ◎シェイクスピアがガリョガリレイと、恋がししの目的でイタリアに渡り、ロミオ&ジュリエットの物語を作り上げる。さてその結末とは.....?

schedule for MARCH 2006

schedule for MARCH 2006